

第18回 厚木看護専門学校 教育課程編成委員会 議事録

日時：2024年9月3日(火)

15:55～16:50

場所：厚木看護専門学校 会議室

1 外部委員出席者（4人）

- (1) 三宅 正敬（厚木医師会長）
- (2) 神保 京美（伊勢原協同病院 副院長兼看護部長）
- (3) 益子 利彦（厚木市 健康こどもみらい部長）
- (4) 宗方 泰司（神奈川県立厚木王子高等学校長）
- (5) 欠席
北野 義和（厚木病院協会 副会長）
大西 早苗（神奈川県看護協会県央支部副支部長）
伊藤 玲子（東名厚木病院副院長兼看護部長）

2 厚木看護専門学校教職員出席者（5人）

学校長 五十嵐一美【委員長】、副学校長 田原裕子【副委員長】、
看護学科長 島田真由美、看護学科技幹 中原真弓、総務課長 茂木憲明

3 議題等

- (1) 議題
 - ① 2023年度 学年目標とその到達度評価について
 - ② 卒業生の看護実践能力評価経過
 - ③ 教育DXの推進
- (2) (1)①、②の議題に関する質疑応答、意見交換
- (3) (1)③の議題に関する質疑応答、意見交換
- (4) その他
- (5) 配付資料
 - ① 2024年度入学生用 スクールガイダンス
 - ② 2024年度 シラバス
 - ③ 2023年度 学年目標とその到達度評価について
 - ④ 卒業生の看護実践能力評価経過
 - ⑤ 教育課程編成委員会名簿
 - ⑥ 教育課程編成委員会規程
 - ⑦ 座席表
 - ⑧ 2024年度シラバス

4 内容等

【田原副委員長】

配付資料の確認を行った。欠席者がいるが当委員会規程第5条第7項に基づき定足数は満たしている。

【五十嵐委員長挨拶】

今年度は新たに3名の委員が就任された。2015年度に開催をはじめ、年2回開催を続け今回、第18回目を迎えた。当校では新カリキュラムへ改定してから3年目を迎え、全ての学年が新たなカリキュラムで学修を進めている。2016年度には「職業実践専門課程」の認可を受けた。県内看護専門学校24校のうち3校が認定を受けている。臨地実習先との連携が適切に行われていることも評価されている。

本日は、当校が実践的かつ専門的な職業訓練を遂行できているか、その質を高めるためにも忌憚なきご意見をお願いします。

【田原副委員長】

外部委員紹介及び、当校教職員紹介を行った。

【中原技幹】

資料1に基づき、「議題① 2023年度学年目標とその到達度評価について」を説明した。

【島田学科長】

資料2に基づき「議題② 卒業生の看護実践能力評価経過」を説明した。

5 議題①「2023年度 学年目標とその到達度評価」についての質疑応答

【宗方委員】

新カリキュラム導入から3年目を迎え、学年が一巡するが、旧カリキュラムと何が違うのか。

【島田学科長】

新カリキュラム改正は国が高度医療化、少子多死社会を受けて、それに対応できる看護師を育成するよう取り組みが記載されている。主に次の5つである。①看護実践能力向上、②コミュニケーション力向上、③アセスメント能力向上、④多職種協働、⑤教育DXの推進である。

【神保委員】

資料1については、「そう思わない」方向に回答している人のなかで、自由記載をしている意見はあるか。

【島田学科長】

自由記載は項目にない。毎年同じくらいの「そう思わない」は一定比率を占めている。

【五十嵐委員長】

入学試験の面接時の回答で学習時間は毎日4～5時間と回答していたのに、入学後の学生へのアンケートで一日の勉強時間をたずねると、0時間と回答する学生は多い。このような学生に学習習慣を身に着けさせる仕掛けを教員は作っている。0時間と答えた学生の比率を踏まえると、「そう思う」の比率は高く、仕掛けの成果は表れていると思う。

【神保委員】

毎年、「そう思う」と「まあそう思う」の比率は同じ傾向にある。

【五十嵐委員長】

今年度から金曜日にSelf learning dayを始めたことにより、来年度の評価結果がどう変わるか期待している。

【宗方委員】

知人の看護師がおり、話を聞いて感じていることだが、看護師になってから交代制勤務が続く一方、学び続ける姿勢は大事だと思う。目指すべき看護師像をロールモデルとして目指してほしい。

【五十嵐委員長】

今後も、教員、実習先の指導者はロールモデルを目指していく。

【宗方委員】

資料1の1年の学年目標④「他者を理解し、協調性を高める努力ができる」が、①「人間関係を豊かにすることができた」や②「生命の豊かさを理解し、人間関係を深めることができた」よりも到達度評価が高いのは何故か。

【五十嵐委員長】

授業では、学生間で協同し結果を求める授業が多い。学生は結果を出すにあたり反論されることは敏感である。その際のいざこざも協調性を学ぶトレーニングの一つである。反論や異論を我慢しながら協調性を学んだ結果と思う。

【島田学科長】

学生はクラスメートに本音を話すことは苦手である。看護師として生きやすい環境を整備することが必要とも思う。

【宗方委員】

看護師間でのカンファレンスは大事である。協同して課題を発見し、学び、看護師としての力を身に付けてほしい。

6 議題②「卒業生の看護実践能力評価経過」についての質疑応答

【五十嵐委員長】

本日欠席している委員からのご意見をいただいたので紹介する。

【伊藤委員】

資料2の看護実践能力の4段階評価の経過・平均値をみると、2022年と2023年を比較すると、いずれも「教育担当者」の評価より「2年目看護師」の評価の方が高いことは興味深い。さらに合計平均は、2022年より2023のほうが差が大きい。厚書の先生方はどのように分析されているのか。

「教育担当者」が考えている以上に、「2年目看護師」は努力しているという結果なのかもしれない。卒業してからも、看護師として学習する、成長していこうと考えている看護師であることは、病院として頼もしいと感じている。

【島田学科長】

2023年に該当する「2年目看護師」は、在学当時、新型コロナウイルス感染症の影響で臨地実習にあまり行かれなかった。コミュニケーション力が不足しており、周りに相談できない学生が多い。授業でもマイク回しをためらう。臨床現場でも相談できない場面が見受けられた。

【神保委員】

当院に就職した看護師も、コミュニケーションが苦手で会話が成り立たない。グループワークも話が盛り上がらない。指導者は「ファシリテーション研修」に積極的に参加している状況である。

【五十嵐委員長】

2年目の看護実践能力を調査している看護専門学校は、まだ少ないと思う。2023年に該当する「2年目看護師」は、当校卒業時には、臨床に出して大丈夫か不安を感じていた。

【宗方委員】

この看護師たちは、看護のケースレポートを書くことは経験しているのか。

【島田学科長】

各看護学領域でサマリーを書く経験をする。最後に看護研究をまとめる。その際テーマは、患者のためになる方向の研究テーマが多かった。コロナ禍で臨地実習が難しい時期に実習を受け入れてもらえ、出会った患者に最善の看護をしたいという「感謝」の気持ちは根底にあった。

看護展開は協同で、最後のレポートは個人でまとめている。

【宗方委員】

ケースレポートは個別でまとめるのか、あるいはチームでまとめるのか。チームでの協同作業の際は、必然的にコミュニケーション能力が求められると思う。

高校生でも積極的に発言する学生とそうでない学生がいる。ペアワークやグループワークを取り入れる授業は多いが、コミュニケーションをとることを目的してしまうのはどうかと思っている。まず個人の考え方を持たせてから交流しないと、声の大きい学生、リーダーシップの強い学生になびくようになり、発言を控えるようになってしまう。このことは小学校、中学校、高校いずれも同様と感じている。

【五十嵐委員長】

貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。今後の授業の仕掛けづくりに反映できるよう、考えていきたい。

【益子委員】

卒業後の就職率はどのくらいなのか。

【五十嵐委員長】

100%である。神奈川県下に集中している。

【益子委員】

近隣の病院は、どこも看護師が足りないと聞いているが、どうしてだろうか。

【神保委員】

中途退職し、より華やかな看護現場に転職する流れができています。診療報酬改定により地域包括医療病棟が新たに看護師配置基準に新設されたことによる、影響が出ていると思う。

【五十嵐委員長】

県央地区（厚木、大和、海老名、座間、綾瀬、愛川、清川等の市町村）は厚木看護専門学校1校のみである。神奈川工科大学は都内からの学生が多い。80名定員の看護専門学校から広い地域をカバーするのは難しい。

【神保委員】

資料2の11番「機会に応じ死にゆく患者および家族の心理的ケアを行う」の行に赤色セルで記載された部分が評価の値が低い。経験値が少ないから低くなるということか。

【五十嵐委員長】

学生は葬儀場の実習に行き、湯灌等を行う場面を見たり、遺族会から家族を亡くす話

を聞くと、感性を震わせられるようだ。看取る側になる覚悟を持ちながら学習できるかどうか、課題となっていると思う。

7 議題③「教育DXの推進」についての説明及び質疑応答

【五十嵐委員長】

教育DX推進についてご報告する。

厚生労働省の「看護現場におけるデジタルトランスフォーメーション促進事業」という、病院や看護師養成所のDX推進に補助金が交付される事業の公募があり、手を挙げたところ南関東地区の1校に認定された。1400万円の予算で計画に沿ってDX化を進めていく。当委員会の次回3月13日(休)開催時には進捗状況を報告できると思う。

来年度には、実際にDX機器を整備した教室を紹介できるだろうが、ただ機器を整備するだけでなく、医療DXに対応できる看護師を育てていきたい。

【宗方委員】

1400万円の補助金は、人件費の投資はできるのか。それとも物件費だけなのか。

【五十嵐委員長】

人件費も投資できる。SE技術者も派遣してもらえる。物件費は具体的に見積書を詰めていくと1400万円では足りない。

【宗方委員】

高等学校にはDX加速化推進事業があり、1校1000万円の補助金で神奈川県に30校程度採択された。厚木王子高校もその一つである。厚木医師会の三宅先生にもご助言いただきながら教育DXの知識や判断力等を身に着ける努力をしているところである。

【五十嵐委員長】

臨地実習先で実際の患者さんへの看護を失敗することはできない。学内実習でデジタルシミュレーションを使い、失敗しながらも経験を積み技術を向上させたい。

【宗方委員】

VRを導入するとよいのではないか。

【五十嵐委員長】

VRは何回かデモ機を使ってみたが、当校がイメージする技術向上には近づいていないのが現状である。

プロジェクションマッピングで被災地の救急場面などの仮想空間に学生がクラス全員で没入したものをイメージしている。救命救急場面は臨地実習では入れない。学内でゆっくり体験できる場を設けたいと考えている。

【宗方委員】

DXは課題を分析しまとめていけば、良いものになっていくと思う。期待している。